

2021年5月6日

国 務 大 臣  
河野 太郎 様

## 新型コロナウイルス感染症 ワクチン接種に関する第2次提言

～高齢者接種の本格化に向けて、希望者が一刻も早く、  
安心・安全そして円滑に接種できる体制と環境を～

立憲民主党新型コロナウイルス感染症  
ワクチン接種に関する課題検討PT

## 新型コロナウイルス感染症 ワクチン接種に関する第2次提言（重点ポイント）

立憲民主党 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に関する課題検討PT

ワクチン接種への国民の期待は大きいだけに、接種を心待ちにしている方の接種状況の遅れに対する不満が募っている。総理は7月を念頭に高齢者のワクチン接種を終えることを目指すと表明したが、自治体や現場から困惑の声が上がっている。

今後、医療従事者から高齢者接種の本格化へと進んでいくことに伴い、様々な問題が生じる懸念もある中で、政府のリスクコミュニケーションは、はなはだ不十分である。

立憲民主党は、接種を希望する方が、一刻も早く、一人でも多く、安心・安全そして円滑に接種できる体制と環境をしっかりと整備する。

### ★五輪より、ワクチン接種を優先すべき

東京オリンピック、パラリンピックの開催には、一日あたり300人の医師と、500人の看護師が必要と言われているが、それだけの医師や看護師が手配できるのなら、国内感染者の治療とワクチン接種にこそ最優先に充てるべき。これ以上、国民へのワクチン接種に遅れが生じることも、重症者が後回しされることも許されない。

### ★ワクチン確保と配分に全力を

全国の自治体が、政府の度重なる方針変更で混乱している。供給するワクチンの種類・配分量、日程等を、可能な限り早期に具体的に確定させるべき。今冬のワクチン確保と体制も整備を。

### ★優先接種の考え方の整理

医療従事者等への優先接種を速やかに完了すること。全ての介護・障がい者施設の従事者を高齢者と同時期の優先接種対象にすること。感染急増拡大地域への重点配分については、データに基づき専門家の意見を踏まえて検討すること。優先接種の状況を踏まえ、政府として、その後の優先接種の考え方を再検討し、国民に提示すること。

### ★接種従事者・担当者の確保

潜在看護師の登用や各種団体への働きかけを強力に行うなど、接種従事者の確保に全力を尽くすこと。自治体と連携しつつ、国としてのあらゆる資源を総動員した支援策を強化すること。「24時間接種」で現場を疲弊させるより、通勤等に配慮した、接種時間・接種場所の拡大を行うこと。

### ★副反応対策とリスクコミュニケーションの一層の強化

副反応部会の開催頻度を週一回に増やすとともに、収集した有害事象報告について、速やかに分かりやすく公表すること。またワクチン接種との因果関係を安易に否定しないこと。「2回目接種後の方が副反応がより強い」「女性の方が副反応がより強い」「翌日は休んだ方がいい」などの情報を国民に周知すること。「ワクチン休暇」の導入を支援すること。

### ★国産ワクチンの開発を強力に促進

国民への安定供給を目指し、国産ワクチン開発への支援をこれまで以上に強力に行うこと。

### ★国内版「ワクチン・パスポート」は実施しない

接種や接種意思の有無による、誹謗中傷や差別、行動制限、職業上の制限などの不利益があってはならない。そのためのガイドライン策定や相談体制の整備を行うこと。接種証明書が国内版「ワクチン・パスポート」として使われることのないようにすること。